

様式第二号の九（第八条の四の六関係）

（第 1 面）

産業廃棄物処理計画実施状況報告書			
5 年 6 月 28 日			
都道府県知事 (市長)		殿	
提出者 株式会社 亀田商店			
住 所 青森県東津軽郡平内町大字清水川字大川添 76			
氏 名 代表取締役 亀田光美			
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)			
電話番号 017-756-2007			
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 12 条第 10 項の規定に基づき、令和 3 年度の産業廃棄物処理計画の実施状況を報告します。			
事業場の名称		株式会社 亀田商店	
事業場の所在地		青森県東津軽郡平内町大字清水川字大川添 76	
事業の種類		水産食料品製造業	
産業廃棄物処理計画における計画期間		令和 4 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 31 日	
産業廃棄物処理計画における目標値			
項目		目標値	
排出量		1,290t	
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量		0t	
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量		t	
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量		t	
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量		t	
※事務処理欄			

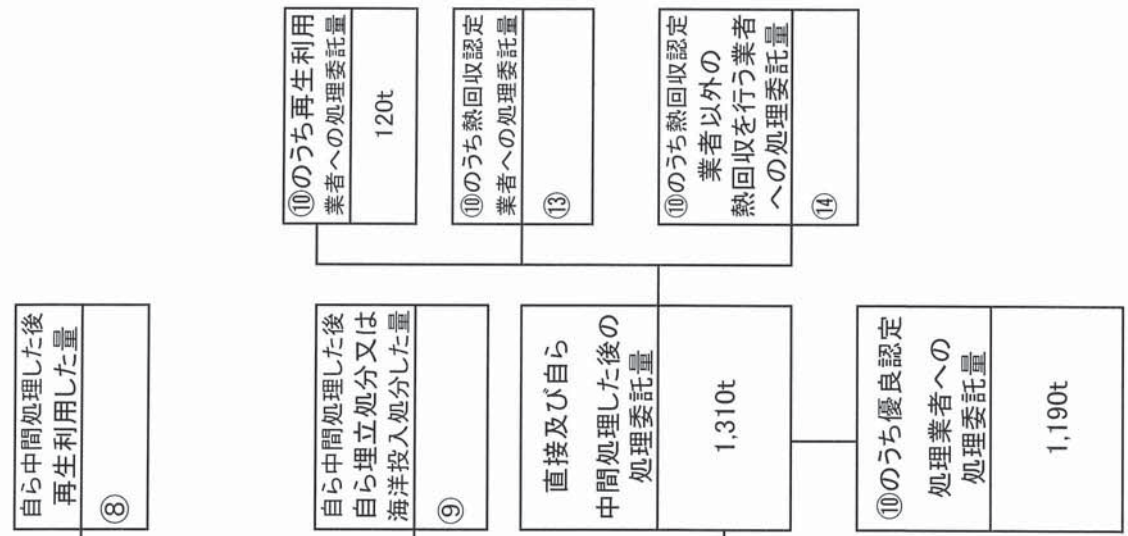
(日本産業規格 A 列 4 番)



計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: ホタテ貝殻)

不要物等発生量		有償物量
排出量		1,310t
① 排出量	実績値	1,310t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量		
⑤ 自ら熱回収を行った量		
⑦ 自ら中間処理により減量した量		
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量は		
⑩ 全処理委託量	1,310t	
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	1,190t	
⑫ 再生利用業者への処理委託量	120t	
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量		
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		



計画の実施状況

(産業廃棄物の種類： 汚泥)

有償物量

不要物等発生量

排出量

5.05t

自ら直接
再生利用した量
②

自ら直接埋立処分又は
海洋投入処分した量
③

自ら中間処理
した量
④

④のうち熱回収
を行った量
⑤

自ら中間処理した
後の残さ量
⑥

自ら中間処理によ
り減量した量
⑦

自ら中間処理した後
自ら埋立処分又は
海洋投入処分した量
⑨

直接及び自ら
中間処理した後の
処理委託量
5.05t

⑩のうち優良認定
処理業者への
処理委託量
5.05t

⑩のうち再生利用
業者への処理委託量

⑩のうち熱回収認定
業者への処理委託量
⑬

⑩のうち熱回収認定
業者以外の
熱回収を行う業者
への処理委託量
⑭

項目	実績値
① 排出量	5.05t
②+⑧ 自ら再生利用を 行った量	
⑤ 自ら熱回収を行った量	
⑦ 自ら中間処理により減 量した量	
③+⑨ 自ら埋立処分又 は海洋投入処分を行った量	
⑩ 全処理委託量	5.05t
⑪ 優良認定処理業者への 処理委託量	5.05t
⑫ 再生利用業者への処理 委託量	
⑬ 熱回収認定業者への処 理委託量	
⑭ 熱回収認定業者以外の 熱回収を行う業者への処理 委託量	

計画の実施状況

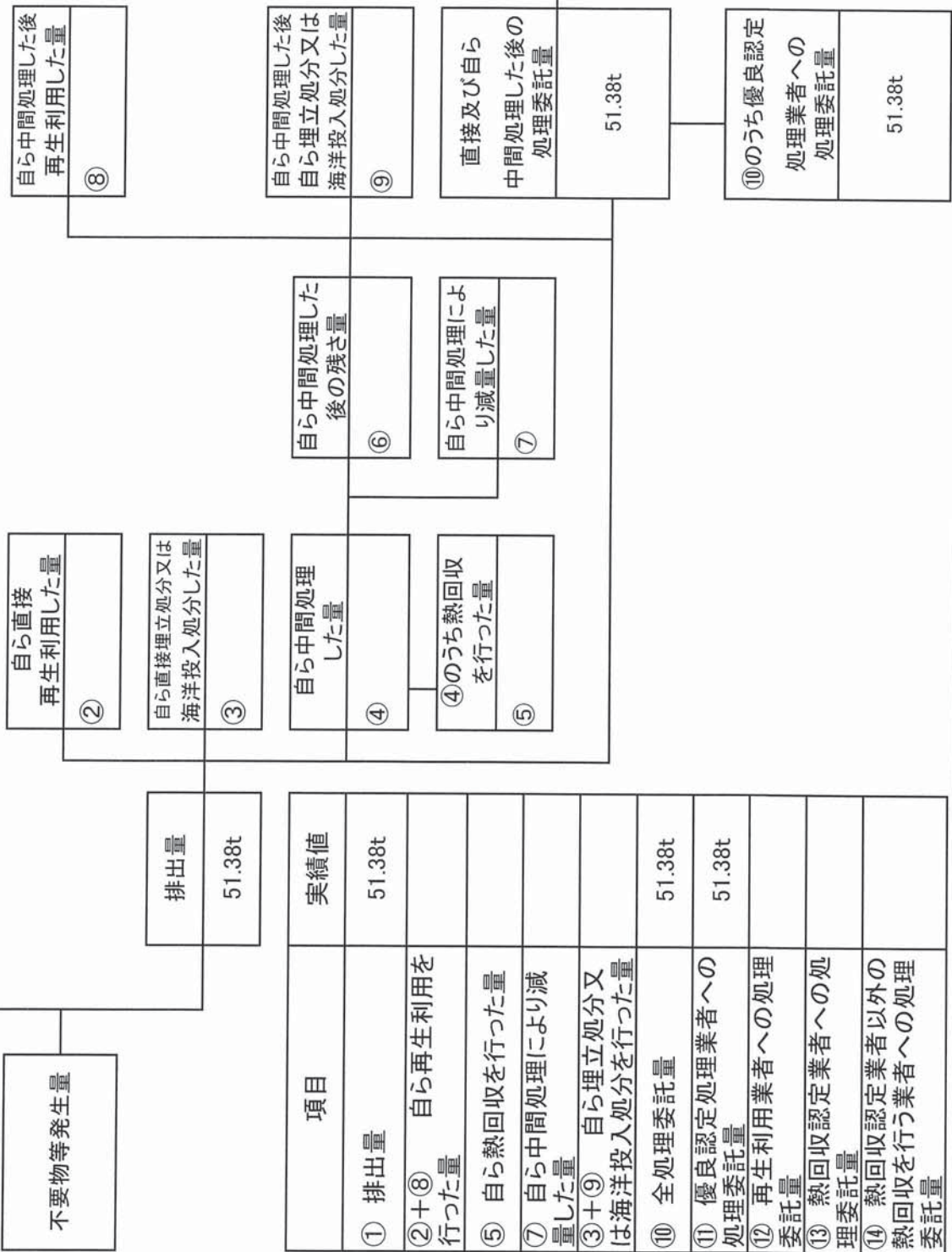
(産業廃棄物の種類: ホタテ残渣)

有償物量

不要物等発生量

排出量

51.38t



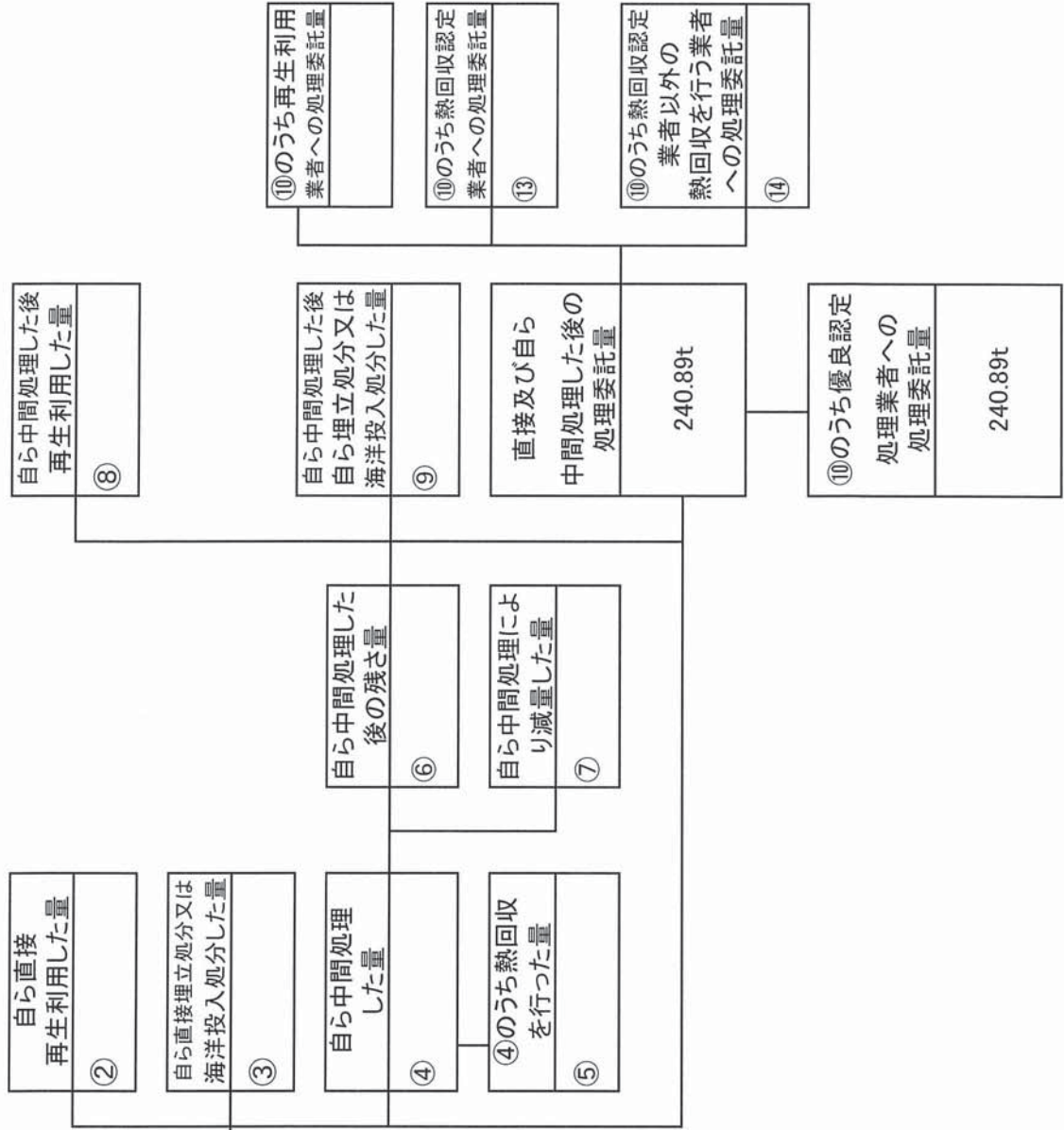
項目	実績値
① 排出量	51.38t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	
⑤ 自ら熱回収を行った量	
⑦ 自ら中間処理により減量した量	
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	
⑩ 全処理委託量	51.38t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	51.38t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量	
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	

計画の実施状況

(産業廃棄物の種類: ホタテウロ)

(第2面)

不要物等発生量		有償物量
排出量		240.89t
項目	実績値	
① 排出量	240.89t	
②+⑧ 自ら再生利用を行った量		
⑤ 自ら熱回収を行った量		
⑦ 自ら中間処理により減量した量		
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量		
⑩ 全処理委託量	240.89t	
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	240.89t	
⑫ 再生利用業者への処理委託量		
⑬ 熱回収認定業者への処理委託量		
⑭ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		



(第3面)

備考

- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物の処理に関して、①～⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14)に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理した後の量
 - (7) ⑦欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ⑬欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。
- 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。